

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム やちよ コスモス ユニット	評価実施年月日	平成 20年 8月 1日 ~ 8月 10日
評価実施構成員氏名	佐藤壽美子・大森幸子・三浦淳子・佐藤安宏・大柳勇太・松本舞・千葉卓・小川祥子・田中美紗子		
記録者氏名	佐藤壽美子	記録年月日	平成 20年 8月 25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>学校、地域の行事等の参加など自由な外出、かかわりを多くすることにより「生きる喜びを与えてくれたあなたにありがとう」の理念のもとに一人ひとりの生活リズムを大切に考えねその人らしく生きていくことを少しだけ手助けをして生活して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>ホームの中だけで生活するのではなく在宅時と同じ様に地域と繋がりを持ちながら地域の一人としての生活を継続する支援をしている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>採用時には必ず理念を伝え理解を得ている。採用後はミーティングや申し送りの時間を利用し理念の共有に取り組んでいる。又対応時に理念と異なる対応があればその都度話をし理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>理念の実現に向けてスタッフ全員が共通理解出来る様具体例をあげわかりやすく理念を反映できるように努めている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には見学、入居、ホームへ訪問、また運営推進会議の際に話をし理念を理解して頂いている。また認知症サポーター講座の講師をし地域の方々に認知症への理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>地域の方々から相談を受けた際には理念を伝え理解につなげている。家族に対してだけではなく広く地域の方々にも理解して頂ける様努めている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や近所の行事の際にはこちらから挨拶をし自然に親しくなる関係づくりを心がけている。また買出しに同行してもらい地域の方々と触れ合う機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>近隣の方が気軽に見学に来られたり、保育所、小学校との交流を通じて付き合いが自然に広がるよう努めている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>保育所、小学校との交流を定期的に持ち行事に参加したりホームへ来ていただいたりしている。またボランティアやヘルパー実習生を受け入れ開かれたホームづくりを目指している。</p>	<p>○</p> <p>現在、町内会に参加していないため町内の活動への参加の機会が無い。町内会と話し合いを重ね町内会へ所属することを実現したい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>電話や訪問により相談を受けたり地域の町内会で講演したり等できる中で取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後は更に、認知症への理解を深めて頂けるよう機会を作り活動していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ全員で意義を理解し評価をしサービスの質の向上に役立てていく努力をしている。改善点があれば速やかに改善し、より良いホームづくりを目指している。</p>	<p>○</p> <p>より良いサービスを提供するため評価の意義を理解しホームを見直す機会と、とらえ真摯に取り組んでいる。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>入居状況、日頃の様子、行事、事故の報告をし地域からの参加者、包括支援センター職員、市職員、またご家族から質問、意見を頂きホームの質の向上と理解につなげている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族から要望、意見の言いやすい雰囲気をもつていきたい。参加のご家族が固定されてしまわぬ様場所や時間の見直しも必要である。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市からの依頼には積極的に協力し相互理解を深めることでサービスの向上を目指し、当ホームへの理解を深めていただいている。</p>	<p>○</p> <p>市と連携し相互理解を深めることで認知症の方々とその家族の利益に繋げていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度については理解している職員もいるが全員が理解しているわけではないので今後勉強会や研修会への参加をしていきたい</p>	<p>○</p> <p>今後学習機会や、説明などに取り組んでいく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者会議の中で定期的に身体拘束廃止委員会を開催し拘束廃止への意識を高めている。スタッフにはユニット会議の中で話し、言葉、薬、施設、ベット柵等 拘束に当たるものへの意識を高めて防止している。また講習会へ参加し意識向上に役立っている。</p>	<p>○</p> <p>何が拘束になるか具体的事例をあげながらスタッフの意識の向上に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前、契約時にわかりやすく説明し質問、疑問や不安に対して納得されるまで説明している。契約時には契約書、重要事項説明書、預かり金説明書、終末期指針を渡し、1項目づつ説明し質問に答え、納得の上契約している。</p>	<p>契約時には利用者・家族等の聞きたいことを利用者の立場に立ち、将来の事も含めて疑問等を引き出し、それらに対して十分な説明をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	言葉で表現できない方も居るので表情や様子から想いを察する対応を心掛けている。入居者とゆっくり話しをする時間を設け話し易い関係づくりをしている。その中で不安、意見等はユニット会議の中で都度話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	○	入居者さん本位の対応をしているが共同生活の中で一人の方の意見が、全て、とはならない事柄もあり調整しながら対応している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	日常の暮らしぶりについてはホームへ来られた際に直接伝えている。受診結果はその都度伝えている。異常時はすぐに状況を伝え合意の上対応している。預かり金は月末の請求時に領収書とともに明細を知らせている。又毎月代表者、管理者、スタッフが1ヶ月の様子を知らせる手紙を各家族に送っている。	○	ホームページを作成し日常の生活を具体的に知っていただいている。ホームページを作成する事で離れている家族にも様子を知って頂いている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が訪問された際には話す時間をもち細かな様子を伝えるとともに、ご家族からの要望や質問を気軽に言える雰囲気作りを取組んでいる。運営推進会議では意見を頂き参考にしている。第三者機関を設け苦情の受付と相談窓口であることを伝え理解して頂いている。	○	ご意見、苦情があればすみやかに対応しスタッフとともに考え更によりホーム作りに役立てている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や、朝、夕の申し送り、又日常業務の中でスタッフと話す時間を設けスタッフからの提案を受け入れ反映させている。また、日頃からコミュニケーションを図れるよう心がけ、問い掛けたり、聞き出ししたりしている。	○	スタッフの提案や考えを聞く時間を持っているがまだ十分とは言えない。業務の関係から全員揃っての会議が出来ず意志統一に留意している。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が可能な勤務体制となっており緊急時にも十分な対応が出来る。スタッフが急に休みとなってもスタッフの勤務交代は十分に可能である。		本人のニーズや生活時間に合わせた体制が取れる人員の確保をしている
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	両ユニットの交流の機会を設け、異なるユニットのスタッフとも馴染みの関係になる機会を設けユニット間でスタッフの異動があってもダメージが少ない対応をしている。入居者とスタッフの馴染みの関係を大切に考え、離職者や新規採用のスタッフがいた際にはダメージを最小限に抑える努力をしている。		入居者さんにとってなじみの職員が継続的に支える体制となっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会や講演会の情報を知らせ、参加する機会を作っている。スタッフは1年間の目標を設定し3ヶ月毎に評価をし、管理者との面談を持ち育成に繋げている。他グループホームとの交流を持ち、学ぶ機会を作っている。	○ 研修会、講演会出席後はレポートの提出をし内容や、学んだ事の確認をしている。日常の業務に反映出来る様指導している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム広域連合会の研修を定期的に行い、同業者との交流を深めスタッフの質の向上に勤めている。市内のグループホーム連絡会では事例報告会を開催するなど連携してスタッフの質の向上の向けて取組んでいる。	管理者に限らず職員が地域の同業者と交流できるよう希望者を募り、参加する機会を設けている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常業務の中や面談時に相談事があれば話しが出来る関係作りをしている。業務で出来ないところがあればどうしたら出来るようになるかスタッフも含めて話し合いをしストレスとしない配慮をしている。	年に数回、管理者も交えた親睦会を実施している。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	出来ているところは認め出来ないところはどうしたら出来るようになるか話し合いをしている。研修会参加や資格取得の支援をし努力や実績を評価している。	職員の健康状態はケアのあり方に大きな影響を与えかねないので疲労感をためないようにしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学や入居の相談に来られた際に御本人の状況を聞き、ご家族の悩みや困っている事を受け止め相談にのっている。入居が決まった際には、ご本人に会い細かな情報をあらかじめ聞き取りし、ご本人の生活歴や日常生活、想いを知りスタッフにも周知し、入居後の穏かな生活に繋げている。	本人の思いや不安を受け入れ安心して頂く事からはじめる。何を求め何が大切な、恐れていることは何か苦しんでいること、困っていることの把握することにより信頼関係を作っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。	予約をされているご家族には1ヶ月に1回入居状況をお知らせするとともに入居希望の方の状況、及びご家族の悩みも聴き相談を受けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人にとって、そしてご家族にとって一番必要な事は何か、を考え対応している。在宅の相談者に対しては包括支援センターや市の福祉課への相談を勧めている。又サービスの種類や内容についての情報をお知らせしている。		困っていることや不安な事にたいして、可能な限り直ぐに実行し出来ないことでも安易に逃げず、対策を考えている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたり管理者、ケアマネが自宅へ伺ったり、デイサービス利用時に御本人の様子を見に行ったりしている。またサービス提供者から話を聞いたりして御本人の状況を詳しく知りスタッフ全員で情報の共有をして入居後の対応に備えている。		本人に納得の上の利用により心理的な不安を抱えることが無い様に十分に配慮している
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来る事は何か、を見極め御本人に負担にならない範囲で出来る事はして頂き出来ないところを支える対応をし、ご本人の想いを知り受け止めることを基本にしている。又経験豊かなお年寄りから教えていただくことを大切に考えている。	○	スタッフが「してあげる」ことが良い事ではなく御本人が「出来る力」を継続して発揮し生活参加をしていただけるよう努めて行く。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人に対するご家族の想いを大切に考えている。ご本人が安心して生活される事がご家族にとって一番安心する事と考えている。ご本人を中心とした家族の関係を大切に考え一緒に御本人を支えて行くことを基本としている。		御家族に認知症への理解を深めていただけるよう話し合いを持っている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	様々な家族関係があり話していただける範囲の中で理解に勤めている。ホームに来られた際には会話の中から理解に勤め、来られない御家族に関しては自宅を訪問するなどしてよりよい関係を築いていけるよう支援している。	○	ご家族には認知症を理解して頂くことが御本人とのよい関係作りに繋がると思われる。機会を捉えて認知症の理解を深めていただけるよう対応している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	かかりつけの病院での受診援助、馴染みの美容室の利用、など在宅時の生活の継続支援をしている。ホームへの訪問はいつでも受け入れ制限は無い。		入所前の馴染みの場所を把握し、再度その場へいけるような取り組みをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握しているがその時々状況によって関係も変化する為、常にスタッフが状況を把握し関係がスムーズなものとなる様支援している。個別対応を大切にするのと同じく集団で行うレク、行事、催し物、ドライブ等良好な関係が作られるよう支援している。	○	集団の中での入居者さんに配慮し、入居者さんが孤立しないような支援、助けあい、支え会いを引き出し、利用者同士の関係や個性を上手く生かす配慮をしている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院の為契約が終了してもお見舞いに伺うなど関係を切らない対応をしている。また、ご家族にも近況を聞くなどの対応をしている。		やむをえず退所される場合移転先の紹介などの支援をした
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくり話しをして御本人の想いの把握に努めている。多人数での会話時や受診、入浴、散歩時などの1対1の対応時の会話の中から把握している。困難な場合はご家族や関係者から情報を得、本人本位になるよう家族を交えて話し合い、検討している。	○	認知症により想いを知るのが難しいことがある。スタッフ個々が一瞬の表情を見逃さない、変化を感じる取る等気づく力をつけて行けるよう取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人、家族から話しを聞き出来る限りの情報を集めている。デイサービスなどサービスを利用している場合は利用の様子を見たり、聴いたり把握に努めスタッフとも共有している。		ご家族から小さな事柄でも情報を伝えてもらった時には、記録に残すようにし、共通理解を心がけている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活日誌、連絡ノート、朝、夕の申し送りで毎日の状況を共有し、ユニット会議、担当者会議、モニタリングなどで総合的な把握をしている。出来る事、出来ない事、身体状況、精神状態をスタッフ全員が把握し、支援につなげている。		個々の1日の生活リズムを把握している(食事・睡眠・生活習慣・体調の変化)家族や関係者による出来ないという情報にとらわれず出来ること、分かる力を本人の生活や全体像から把握している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の本人の状況を把握した上で家族と話し、本人、家族の想いを反映した計画を作成している。介護支援専門員が中心となり3ヶ月毎にモニタリングを行い本人の状況の見直しをしケアプランの作成をしている。変化があればその都度新たなプランを作成している。		個々に沿った具体的な計画を作成している。職員の視点ではなく入居者さん主体の暮らしを反映した介護計画になっている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		ケアプランと照らし合わせて、現時点の入居者さんや家族の状況・ニーズ、サービス提供状況とずれていないようにしている。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		特に注目してほしい事柄などは特記事項に記録し、職員の目に入りやすくしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		入居者さん、家族が安心して暮らし続けるために必要な支援が出来るよう柔軟な対応をしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	今後も、積極的な連携を組んでいく
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		今後も必要に応じて他のサービスを利用するための支援を検討していく。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		地域のサービス事業者・関係団体・民生委員によって構成されている人的ネットワーク組織の構築に向けて協働している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時には御本人、家族の意向を聞きそれに沿った受診支援をしている。特に要望が無いときにはホームの協力病院の説明をし、御本人、家族に決定して頂き受診に繋げている。緊急時にはご家族と連携をとり適切な医療を受けられるよう体制を整えている。又状況により訪問診療、訪問看護の利用もしている。		通院方法・情報の伝達方法について家族等と話し合い合意されている
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の中に精神科を持つ医院も含まれており介護認定更新時の医師の意見書作成を依頼している。受診時には医師との良い関係が築けるよう留意している。		認知症に関する診断や治療の対処方法について入居者さん個々にできている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護スタッフを配置しており日常の健康管理、急変時の対応をしている。又受診時には看護職ともよい関係作りにも留意している。不在の時は介護職員の記録をもとに確実な連携をとっている。		入居者さんの普段の状態や疾病を理解している。24時間の対応、急な発熱・救急に行くべきか・朝まで様子を見るか判断・相談をし連携をとっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際にはホームでの生活、既往症、受診状況、服薬など必要な詳しい情報を提供し医療と連携している。入院中はお見舞いに行き病状について情報を得ている。病院と連携し早期退院に向けてホームの受け入れ態勢を伝えている。		病院に対してなるべく混乱が少ない様に本人の普段の状況や特徴等を伝えている。家族・医療機関と通院計画の具体的な立案を受け入れ体制を整えている
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時にホームの終末期指針の説明をし同意を頂き方針を共有している。スタッフも指針を共有している。御本人の想いを大切にし医師、ご家族、スタッフで話し合いを重ね方針を決めている。		本人や家族の思い「本人にとって、どう向き合ったら良いのか」、対応し得る最大の支援方法を踏まえ、チームで話し合っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同意を頂いた終末期指針に基づきかかりつけ医とともにチームとして支援している。ご本人の想い、ご家族の想いを受け止め医師と連携しながら方向を決めている。チームとしては日々の様子を共有し今必要としている事を見極め細かな対応をしている。ご本人の状態に変化があればその都度家族の同意を得、対応している。	○	終末期の支援に対してスタッフ全員の資質向上をして行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えによるダメージが最小限となる様ホームでの生活の情報を提供し新生活にスムーズに入れるよう支援している。		今後も発生した場合は都度実施していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	守秘義務については採用時に説明し理解を徹底している。職員の意識向上を図ると共に、入居者さんの誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけている。	○	他のご家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する事を話さないことを徹底しています。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定を大切に考えている。ご本人が決定できるよう、又希望の表出が出来る様、信頼関係作りをしている。言葉で意志を伝えられない方に対しては表情や様子から想いを受け止め支援に繋げている。	○	スタッフ主導ではなく御本人の想いを優先し対応していく姿勢を大切にしている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れは作っているが、時間は決めていない。個々の体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを大切にしている(個別性の支援)		ホームのスケジュールに利用者の生活が合わされた支援ではなく入居者さんのペースに合わせた支援を心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節に合わせた衣類着用の支援(基本的には自己決定)、お化粧、髭剃りへの支援をしている。頭髪は行き着けの美容室同行と出張床屋、出張美容師の利用をし整容への支援をしている。外出時は場所に見合った服装の支援をし、その方らしいおしゃれと身だしなみを整えていただいている。		身だしなみをご本人の自己決定の一つとしてご本人の好みで整えられるよう支援している。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買出しに同行していただき食事作りへの参加をしていただいている。調理の中で出来る事はして頂き力を生かしてもらえ支援をしている。後片付けも出来る範囲でしてもらっている。スタッフが同じテーブルで同じ食事をしながら会話をし食事の時間が楽しいものとなる様にしている。		誕生会やイベント時には行事食とし楽しんでいただく対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好、食べられない食材の把握をし好みにあった食事の提供に繋がっている。体調不良時や食欲が無いときは御本人の食べれるのも、食べたいものを提供している。	○	入居者さんが自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れるように努めている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作り一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見はからい排泄の促しをしている。声掛け時にはプライバシーに配慮している。トイレの場所がわからないことがあった時には素早く察知し案内している。		ご本人の苦痛になるような、無理な誘導はしていない。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴が可能である。曜日を決めたりせず入浴したい方に入っただけの対応をしている。入浴時は自分で出来ることをして頂き出来ないところを支援している。1対1対応なのでくつろいだ雰囲気の中で想いを聴く機会としている。	○	無理強いして入っただけではなく入りたい気持ちになる声掛けをしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	御本人の生活習慣を大切にしている。時間で決めるのではなく起きたい時に起き、寝たい時に寝て頂いている。日中の活動が夜間の良眠に繋がる為、出来る範囲で動いて頂く対応をしている。居室内の温度調節や季節に合った寝具使用の支援をしている。		日中の個別の疲れ具合(人との交流、家事、外出、入浴、その日の出来事等)に合わせて、個別に休憩を取り入れてもらっている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を知り持っている力を発揮して頂ける様支援している。ホームの中で役割を持つ事が生活の張りに繋がると考えている。あらためて何かして貰うのではなく生活の中の細かなひとつ一つをして頂く支援をしている。	○	一人ひとりの持っている力を全て引き出せてはいない。又力はあっても「したくない」といわれる方にしただけの声掛け、誘い方の工夫が必要である。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持が可能な方には家族と相談し小額を自己管理していただいている。買物に行った時や受診時に支払をして頂いたりしている。自己管理が難しいと思われる方に対してはホームでお金を預かり必要な時に本人に渡している。		財布からお金を出すことで社会性の維持につながるようになっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自由に散歩に出かけて頂いている。ドライブ、買物など外出の機会を多く持って頂けるよう考えている。行きたい所があれば出来る限り希望に沿う対応をしている。		歩行困難なケースでも車や車いす等を使って戸外へ出ることを行っている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	水族館、道の駅、催し物、花見、サクランボ狩り、外食など支援をし楽しんで頂いている。ご家族には行事のお知らせをし参加して頂いている。		一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、入居者さん、家族等と相談し協力を得ながら実現に向けた取り組みを心掛けている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話をかけていただく支援をしている。手紙を書き御本人がポストに投函する方もいる。届いた手紙はそのまま御本人に渡している。一人で返事を書くのが難しい方はスタッフが一緒に書くなどの支援をしている。		家族、友人、知人からの手紙や電話を歓迎しています。内容が漏れないよう気を配っています。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族も気軽に訪れるような来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯にいつでも訪ねて来ていただけるよう配慮している。		居室だけではなく、くつろげる訪問者スペースも今後設けていく事も考えている
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を作り定期的に会議を持っている。スタッフに対しては日常業務の中やユニット会議の中で拘束について意識を高める指導をしている。拘束はしていない。		全職員は身体拘束によって利用者が受ける弊害について理解し、拘束のないケアをすることに努めている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自由に外に出かけていただくのを基本としている為生活時間帯に玄関に施錠はしていない。スタッフは鍵を掛けることの弊害を理解している。		外出する気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーができています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールに必ずスタッフがおり常に所在確認や、体調確認をしている。夜間は夜勤者が定時に見回りをし入居者さんの様子を把握し安全に配慮するとともに昼夜通してプライバシーにも十分配慮している。		入居者さんの居場所が分かりにくいところでの作業時には他の職員に声をかけするなど工夫している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険かどうかの判断をし、危険と思われるものは安全な置き場所に移している。一人ひとりによって注意するものが異なる為その方の状態に応じて対応している。		十分な検討をしないまま、包丁、洗剤等全ての物品を一律に片づけたり、鍵をかけてしまうなど、管理が過剰にはなってはいない。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの身体、精神状態を日々見極め事故の起きる可能性を予測し防止に繋げている。事故が起きた時はインシデントレポートを提出し原因を探り対応策を考え同じことが起きないように周知している。	○	転倒、服薬ミスなど同じ様な事故がある。経験した事を財産と同じミスを起こさぬよう徹底している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し急変時や事故発生時にすみやかに対応できるよう備えている。救急救命の講習を受け応急手当を学んでいる。夜間は連絡体制を整え緊急時に備えている。		夜間等、人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法についても想定し周知徹底を図っている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	入居者参加で消防署と協力し避難訓練を実施し万一に備えている。	○	夜間の避難訓練の実施を考えている。同一敷地内の系列の施設との連携を図り地域の方がたにも協力を依頼して行く。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全を第一に考えながらその方のしたい事を支援する事を大切にしている。起こり得るリスクについてはあらかじめ家族と話し合いを持ち理解していただいている。		リスクについては個別的に定期的に見直しをしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>変化や異常を早期に発見できるよう常にスタッフに指導している。異常があればすみやかにバイタル測定、体調把握を管理者、看護師に報告し指示により対応している。受診となった際には家族に了解を得た上で受診対応している。連絡ノート、申し送り、生活日誌を活用し情報の共有をしている。</p>	<p>常に顔色や様子に注意し、兆候を見落とさないよう注意する事を全職員に促している。変化やサイン、対応について報告するとともに、间歇に記録し医療等につなげている。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの一覧表を作成し常にファイルし服用の目的、副作用、用法、用量等がいつでもわかる体制をとっている。新たに処方されたり、服用を止めた時は状態変化の観察をし都度対応している。</p>	<p>○</p> <p>スタッフは服薬の大切さと誤薬の危険性を知り御本人の既往症と関連付けて理解するよう取組んでいる。薬についての勉強会や受診同行時の注意点などを周知させている。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>原因や影響を理解している。毎朝冷たい牛乳を飲んで頂き朝食後はトイレへの声掛けをし排便に繋げている。必要な水分摂取のためお茶、コーヒー、ココア、ジュースなど色々な種類の飲み物を提供している。ラジオ体操や散歩、生活参加で身体を動かしていただいている。</p>	<p>下剤や浣腸等をしている場合は、個々の状態に合わせた使用量、頻度となっており、薬にむやみに頼らない工夫をしている</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアの促しをしている。就寝時には義歯の洗浄援助をしている。口腔内、義歯、歯などの状態により歯科受診をして口腔内の清潔保持を支援している。</p>	<p>口腔ケアの必要性を職員は把握している。歯や義歯ばかりではなく、舌磨きも促している。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分の摂取量を生活日誌に記載し必要量の摂取に繋げている。飲み込みや嚥下状態を見ながらトロミ剤の使用をしたり好みの飲み物、食材の提供をしている。その方の噛む力、口腔内の状態など栄養摂取に関係する状態を把握し支援している。</p>	<p>○</p> <p>むせ込みがあればどの食材でむせたのか、どのような形状だったか検証し誤嚥性肺炎の予防に繋げている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成しスタッフに周知している。スタッフは手洗い、うがいを徹底し、自分自身の体調管理をしっかり行い予防している。夜勤帯の中で椅子やテーブル、手摺、手拭タオル等の消毒を行っている。インフルエンザの予防接種は入居者、スタッフの全員が受けている。</p>	<p>定期的な勉強会が行われ一度作った取り決めをそのままにしておらず、感染症に対する予防や対策を常に新しい知識、技術に更新されている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、布巾の消毒、調理時の手洗いを徹底し衛生管理を行っている。食材をこまめに買出しに行き新鮮な物を用意している。冷凍するものはすみやかに処理している。残った調理済みの物は次に回さず廃棄としている。		台所、調理器具の清潔や衛生管理方法について、取り決めがあり職員は実行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関やスロープに沿って花を置いたり、まめに草刈をし明るく清潔な雰囲気を作っている。	○	玄関やスロープに沿って花を置き明るい雰囲気となっているが道路から坂を登ったところに建物があるため地域の方々が気軽に立ち寄るのは難しいところがある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの窓から畑や、木、山など自然が見え季節を感じていただいている。湿度、温度を定時に測り過ぎ易い環境の提供に努めている。畑から花を切ってホールに飾ったり、秋には栗を拾って飾ったり季節を感じて頂けるよう配慮している。		壁面に入居者さんが作った物を飾ったり季節ごとの作品もかざっている 利用者の書いた作品もフロアーに飾っている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関前に椅子を置き外を眺めながらくつろげる空間を作っている。階段途中で窓があり、のんびり外を眺めている方もいる。ソファで過ごされたり、ホールイスでくつろいだり、と皆さんの好きな場所で自由に過ごされている。		椅子やテーブルを置き一人ですごせる場所も今後考えていく
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には自宅で使っていた馴染みの家具を持ってきて頂く様お話ししている。家族の写真を飾ったり、本人の写真を使って作ったカレンダーを貼ったりとくつろげる空間としている。ベッドの生活にこだわるのではなく布団を敷いて休む生活習慣を継続していただいている方もいる。		使い慣れた目覚まし時計や携帯ラジオ等、小さな物でも持って来てもらい安心して過ごせるような配慮をしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温、換気に配慮をし入居者さんの状況、体調に応じてこまめに調整している。0時と9時に室温、湿度を測定し適切な温度、湿度を保てるよう対応している。		温度や湿度の調節は、職員の感覚だけでなく入居者さん一人ひとりの状態に配慮しておこなっています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>段差の無いフロアーでつまずいたりしない配慮をしている。手摺は最低限の設置とし身体機能の低下を防いでいる。高さを変えられる洗面台を設置し車椅子の方に利用していただいている。エレベーターは車椅子、歩行器使用の方、又階段昇降が困難な時に利用していただき安全な環境となっている。</p>	<p>身体機能の変化に考慮し、入居者さんの現在の状態に応じて生活環境の改善に取り組んでいる。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>出来る事は何か、を見極め出来る事をして頂く対応をしている。現在出来る事だけをして頂くのではなく潜在している能力を出していただけるよう支援している。混乱や失敗を防げるようスタッフが対応しつつ一人ひとりが持っている力を活かして生活していただけるよう援助している。</p>	<p>混乱が起きる前の生活状況と比較し混乱が生じる原因が何なのかをユニットスタッフで考え、対応策を考えている。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外周りは入居者さんの方がたの散歩コースとなっている。畑と花畑があり作物の収穫は自由にして頂いている。玄関前はスロープとなっており車椅子、歩行器使用方がたが外の空気に触れる場所となっている。</p>	<p>畑スペースを確保しており、入居者さんにも花植えや、作物の収穫を手伝ってもらい、日常的に楽しみながら活動している。畑まで行けない方でも、屋内から活動風景を眺め楽しんでいただいている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 私達は日々入居者さんと触れ合う中で「生きる力」を与えられ「生きる喜び」を感じさせていただいております。
 また、多くの事を学ばせていただいております。その中で「心」と「心」の繋がりがあって初めて信頼を得る事ができ、側に寄り添い、ゆっくりうなづき、お話を耳を傾け、手を握り一緒に笑うことが出来る喜びを感じております。
 ①入居者さんの自由な外出、散歩をしていただくため施錠をしない玄関。また、それを支えるためゆとりあるスタッフを配置しています。
 ②入居者さんの生活ペースに合わせた日常生活差を送っていただくためスタッフ都合の支援は行っていない。